

VF-81/A-8
Serial 038

第81戦闘飛行隊
カリフォルニア州サンフランシスコ
艦隊郵便局気付

機 密

1945年3月3日

発: 第81戦闘飛行隊長
宛: 合衆国太平洋艦隊司令長官
経由: (1)第81空母航空団司令
 (2)米海軍軍艦ワスプ艦長
 (3)第58.1任務群司令官
 (4)第58任務部隊司令官
 (5)第5艦隊司令長官

件名: 航空機戦闘報告書の送付について

参照:(a)1945年1月1日付 太平洋艦隊機密書簡 1CL-45

同封書類:(A)第81戦闘飛行隊(VF-81)の航空機戦闘分析(ACA-1)報告書 第1-A
-85、1-D-87、1-A-89、1-D-90、1-E-91、1-写真-92、2-写真-93
号

1. 参照(a)に基づき、1945年2月26日から1945年3月1日までの期間における戦闘を対象とした同封書類(A)を、本書簡にて送付する。

H.P.ランハム

写し送付先:

合衆国艦隊司令長官
太平洋艦隊航空部隊司令官
太平洋戦域軍最高司令官
太平洋艦隊航空部隊作戦情報部
保管用

航空機戦闘報告書

I. 一般事項

(a)報告部隊 第81戦闘飛行隊 (b)所属基地/戦艦 海米軍航空母艦ワスプ(洋上) (c)報告書番号 1-A-85
(d)発進日 1945年2月25日 時間 7:15(日本時間6:15) (Zone); 紋度 北緯33度20分 経度 東経142度52分
(e)任務 厚木および下溝飛行場に対する戦闘機による掃討作戦 (f)帰投時間 10:15(日本時間9:15)

(Zone)

II. この報告書の対象となる味方航空機

機種 (a)	飛行隊 (a)	機体数			搭載兵装(1機あたり) (f)	信管設定 (g)
		発艦機数 (c)	空戦参加機数 (d)	対地攻撃参加機数 (e)		
F6F-5 (ヘルキャット)	第81戦闘飛行隊	28機	5機	27機		

III.本作戦に参加した、その他の合衆国または連合国軍機

機種	所属部隊	機数	所属母艦	機種	部隊名	機体数	所属
F6F-5 (ヘルキャット)	第17戦闘飛行隊	22機	米海軍航空母艦 ホーネット				

IV.観測または交戦した敵機(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a) 機種	(b) 観測機数	(c) 味方機との交戦機数	(d) 遭遇時刻	(e) 遭遇場所	(f) 敵機の搭載兵装	(g) 迷彩及びマーキング
トージョー (鍾馗)	2機	2機	8:50 (日本時間7:50) (ZONE)	八街飛行場の北東 20マイル(約32km)		
ヴァル (99式艦上爆撃機)	1機	1機	9:00 (日本時間8:00) (ZONE)	八街飛行場の北東 10マイル(約16km)		
ジーク (零戦)	2機	1機	9:00 (日本時間10:00) (ZONE)	八街飛行場の北東 10マイル(約16km)		

(h) 推定される敵の任務

(i)雲の中で敵と遭遇したか はい 該当する場合は、雲の詳細を記述 雲底3,500フィート(約1,067m)の積乱雲、雲量10分の10

(はい・いいえ) _____ (雲底高度(フィート)、雲の種類、雲量(10分率))

(j) 時間帯と太陽または月の明るさ 昼間、薄曇り

(k) 視程 12マイル(約19km)

(夜間、明るい月、昼間、曇天)

イル(約19km)

(距離)

V. 空中で撃墜または損害を与えた敵機(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

航空機戦闘報告書

報告書番号 1-A-85

VI.味方航空機の損失または損害(戦闘または運用上)(本報告書II項に記載の機体のみ)

(a) 機種	(b) 部隊名	(c) 原因(敵機の機種、兵器、または運用上の原因)	(d) 被弾箇所、角度 (装甲、防漏タンク、被弾した装備を記載)	(e) 損失または損害の程度 (破壊された機体は製造番号を記載)
1				
2				
3				
4				
5				
6				
7				
8				
9				
10				
11				
12				
13				
14				

Ⅶ.搭乗員の死傷者(本報告書II項の機体のみ。左の番号でVI項の機体と対応させること)

VIII.帰投した航空機の航続距離、燃料、弾薬データ

口径	なし	少數	中程度	激しい
重火器- 時限信管付き砲弾、75mm以上				
中火器- 着発信管付き砲弾、20mm-50mm			*	
小火器- 機関銃弾、6.5mm-13.2mm			*	

IX.遭遇した敵の対空砲火(各行、該当するブロックにチェック)

X.味方機と敵機の性能比較(左のチェックリストを使用)

速度、上昇力 (各高度において)	低空での追撃戦における、F6F(ヘルキャット)の機動性は、トージョー(鍾馗)を捉えるのに、何ら困難なし。
旋回	
急降下	
上昇限度	
航続距離	
防御力	
武装力	

航空機戦闘報告書

(攻撃を行わなかった場合は、このシートを省略すること)

報告書番号 1-A-85

XI. 敵艦船または地上目標への攻撃(本報告書II項に記載の味方機によるもののみ)

(a) 目標および場所 八街飛行場 (b) 目標上空時刻 8:40~9:50(日本時間 7:40~8:50)

(戦艦については、攻撃区域内の全隻を対象とせよ)

(c) 目標上空の雲 雲底3,500フィート(約1,067m)の積乱雲、雲量10分の10

(d) 目標の視認性 やや霞あり (e) 視程 12マイル(約19km)

(快晴、霞、所々に雲、その他)

(マイル)

(f) 攻撃戦術:種類 使用爆弾

(水平飛行、滑空、急降下)

(種類)

1回あたりの投下数 間隔 投下高度

(NUMBER)

(フィート)

(フィート)

(g) 地上にて命中させた敵機:破壊 5機 概ね破壊 1機 損害 0機

(h) 照準点	(i) 寸法またはトン数	(j)機数 (k)所属部隊	(l)各照準点ごとの爆弾・弾薬消費量	(m)照準点への命中数	(n)損害(なし、軽微、重大、撃破または撃沈)
格納庫 (八街飛行場)	約30m*38m	12機 第81戦闘飛行隊	機銃掃射		格納庫2棟を炎上
航空機 (八街飛行場)	単発機および双発機	15機 第81戦闘飛行隊	機銃掃射		航空機5機を破壊
施設 (東金飛行場)	不明	3機 第81戦闘飛行隊	機銃掃射		観測できず
機関車2両	中型	12機 第81戦闘飛行隊	機銃掃射		両方の機関車を爆発
電車1編成	中型	第81戦闘飛行隊	機銃掃射		炎上破壊

(o) 戦果: (艦船目標への全命中弾、および特に重要な地上目標については、命中弾の種類と箇所を示す図を描画すること。全ての目標について、命中箇所とその効果を記述し、上記の番号で識別すること。必要であれば、別紙を使用せよ)

(p) 写真は撮影されたか? 損害を写した写真がある場合は、ホチキスで添付すること。

航空機戦闘報告書

報告書番号 1-A-85

XII. 戦術および作戦データ(物語形式の報告と所見。左のチェックリストにある該当項目に沿って、行動の全てを記述し、自由に意見を述べること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

敵との交戦

味方機
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度とその有効性
射撃開始距離
防御戦術とその有効性
敵機
発見方法
距離
配置
高度
速度
接近戦術
遮蔽物の利用、欺瞞
攻撃角度
射撃開始距離、防御戦術

所見および提言事項

自軍の弱点
敵の弱点
攻撃戦術
自軍の攻撃戦術
敵の防御戦術
自軍の防御戦術
敵の防御砲火
自軍の護衛戦術
戦闘機管制
レーダーの活用
夜間戦闘
敵味方識別、航空機

攻撃

自軍の戦術
目標の発見方法
目標への接近
(高度、速度)
最終進入
急降下
引き起こし
急降下角度
機銃掃射
離脱
防御戦術
電波妨害の活用
敵軍の防衛
回避戦術、艦船の偽装
探照灯
夜間戦闘機の戦術
電波妨害の活用
所見および提言
爆撃戦術
雷撃戦術
爆弾・魚雷の有効性
目標の選定
信管設定
機銃掃射戦術
防御戦術
レーダーの活用
偵察
写真撮影
ブリーフィング

作戦運用

航法
帰投誘導
合流
識別、艦船
通信
飛行運用
捜索および追跡
基地運用
整備

本任務は、東京の南西約13マイル(約21km)に位置する厚木および下溝飛行場に対する戦闘機による掃討作戦を実施するよう割り当てられた。空中および地上の敵機を最優先目標として指定。

出撃部隊は、空母ワスプ所属のF6F-5ヘルキャット27機と、空母ホーネット所属のF6F-5ヘルキャット22機。目標攻撃調整官はF.J.ブラッシュ海軍中佐。

ホーネット隊の第81戦闘飛行隊F6F編隊への合流後、全部隊は雲底4,000フィート(約1,219m)の厚い雲の下、高度3,000フィート(約914m)を維持して東京方面へ進撃。千葉半島海岸線の通過時、低い雲底により東京地域横断は不可能と判明。結果、攻撃目標として、ブラッシュ中佐より八街飛行場の航空機および施設への機銃掃射攻撃命令が下された。

攻撃は、高度3,000フィート(約914m)から、軽微から中程度の中口径および小口径の対空砲火(AA)に対して行われた。パイロットたちにより対空砲座へ駆け寄る敵地上要員を確認。この事実は対空防御の無力化を示していた。必然的に浅角の降下となつたことで各パイロットが期待していた、より効果的な掃射が不可能となつたにもかかわらず、5機の破壊、1機を擊破の可能性大、2棟の格納庫を炎上させた。地上の多数の航空機は積雪により覆われ、これが引火性を軽減させた。

引き起こし後、多数のパイロットが再編途中で攻撃目標へ機銃掃射。ブラッシュ中佐と彼の小隊により、2両の機関車を機銃掃射し爆破。R.J.ドーラン中尉とP.N.アンドリュース・ジュニア中尉、そして彼らの僚機により旅客電車を機銃掃射し、アンドリュース中尉の攻撃により電気機関車は炎上した。

八街飛行場および機関車への北から南への機銃掃射攻撃からの引き起こし後、ブラッシュ中佐は左に旋回。飛行場の北2マイル(約3.2km)の地点にて、2マイル(約3.2km)前方の10時方向、第81戦闘飛行隊の集合高度と同じ高度1,000フィート(約305m)に、1機のトージョー(鍾馗)を視認。トージョー(鍾馗)の進路が、降下攻撃から引き起こし中のF6F(ヘルキャット)と交錯が必至であったため、ブラッシュ中佐はスロットルとプロペラ回転数を最大にし、敵機へ向け、素早く左旋回した。これを視認したトージョー(鍾馗)は左に旋回し、全速力で北方へ向かった。3分間の追撃で、ブラッシュ中佐は射程900フィート(約274m)まで接近。彼が偏差のない2回の射撃を敢行、300フィート(約91m)以内へ接近するまでに、トージョー(鍾馗)は制御を失い常緑樹林に墜落、大きな炎に包まれ爆発した。

その直後、ブラッシュ中佐と彼の小隊長であるJ.C.マクニース三世少尉は、高度1,000フィート(約305m)を飛行中、2マイル(約3.2km)先の2時方向、同高度に別のトージョー(鍾馗)を発見。友軍機2機が敵機へ向け旋回すると、トージョー(鍾馗)は180度反転し、全出力で地上すれすれまで降下。10マイル(約16km)の追撃戦で、ブラッシュ中佐とマクニース少尉の両名が射程内に入れる。マクニース少尉は高度100フィート(約30m)で(ブラッシュ中佐の)やや前方下を飛行。900フィート(約274m)から200フィート(約61m)まで接近後、マクニース少尉による数回の射撃がトージョー(鍾馗)に命中し、敵機をふらつかせた。その間、ブラッシュ中佐はマクニース少尉への誤射を懸念し射撃を控えた。

XII(続き)

追跡の最終段階は川沿いで展開。土手によりトージョー(鍾馗)は僅かに機首を上げることを強いられ、マクニース少尉とブラッシュ中佐の両名に更なる偏差射撃不要の射撃機会を与えた。その結果、トージョー(鍾馗)は炎上し、右旋回で墜落。この敵機の撃墜は、マクニース少尉の戦果として認定。

同空域にて、P.J.ウォールストローム少尉が、高度4,000フィート(約1,219m)の曇り空から降下してくる1機のジーク(零戦)を視認。ジーク(零戦)が500フィート(約152m)上方にいる中、ウォールストローム少尉は射程1,000フィート(約305m)から射撃を開始、6時方向から800フィート(約244m)まで接近。その時点でジーク(零戦)は雲中に退避し、視界から消失。エンジンからの発煙によって示された、ジーク(零戦)の軽微な損害は、ウォールストローム少尉の銃弾によるものであった。

前述のトージョー(鍾馗)との戦闘におけるブラッシュ中佐小隊の二次的な援護中、N.W.ボーエ中尉と彼の僚機であるJ.M.ラティン少尉が、2マイル(約3.2km)先の12時方向に単独のヴァル(九九式艦爆)を発見。敵機の高度は35~50フィート(約11~15m)、速度は約170ノット(約315km/h)であった。ボーエ中尉の編隊も同様に低空であったが、270ノット(約500km/h)で飛行した。ヴァル(九九式艦爆)へ迅速に追い付き、ボーエ中尉とラティン少尉の両名により、射程1,000フィート(約305m)の6時方向から、敵機を追い越すまで交互に射撃。まさにその瞬間、ヴァル(九九式艦爆)は転覆し、小さな飛行場に炎の玉となって転がりながら墜落。彼らの銃弾がヴァル(九九式艦爆)への損害を与えたことで、おそらくパイロットは攻撃を受けながら絶望的な高速着陸を試みたものと思われる。

これらの様々な攻撃の後、各部隊はブラッシュ中佐の指揮の下で再編隊し、無事基地に帰還した。

航空機戦闘報告書

部外秘
(記入後は再分類すること)

5

機密

報告書番号 1-A-85

XIII. 資材データ(左のチェックリストに沿って、性能や適合性について自由に記述すること。必要であれば、別紙を使用せよ。)

兵装
銃、照準器
砲塔
弾薬
爆弾、魚雷
爆撃照準器
爆弾投下装置
通信
無線機、レーダー
帰投誘導装置
視覚信号
コード、暗号
通信
敵味方識別装置(IFF)
信号
手順
防御
装甲箇所、およびさらなる防御が必要な射角
防漏装置
緊急装備
パラシュート
救命帯、救命ボート
安全ベルト
緊急キット
レーション、救急用品
航法装備
コンパス
偏流測定器
八分儀
自動操縦装置
海図
飛行場灯火
計器
飛行計器
エンジン計器
酸素システム
迷彩および欺瞞装置
構造
機体フレーム
操縦翼面
操縦系統
ダイブフラップ
着陸装置
暖房システム
飛行特性(様々な搭載量において)
動力装置(パワープラント)
エンジン
エンジン補機類
プロペラ
潤滑システム
始動機
排気炎減衰器
油圧システム
電気系統
補助電源装置
灯火
燃料系統
飛行服
整備
基地施設
機体整備用機材
人員用施設

重大な不具合の報告なし。

報告書作成者:

F·W·ストローマイヤー 海軍予備役大尉、航空戦闘情報士官
ロバート・ブッシュ・ジュニア 海軍予備役大尉、航空戦闘情報士官

承認者:

H·P·ランハム 合衆国海軍少佐、司令

1945年5月4日

署名

階級および役職

署名

階級および役職

日付